

(様式1)

## 令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(和田小)学校運営協議会長

### <本年度の目標>

学校の教育活動がより充実するように、活発な議論を行う。

### <評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

学校が、学校経営構想や学校評価について、動画や子供たちの活動の様子が分かる資料を用いて説明したため、よく理解できた。そのため、その後の熟議でも率直に意見を言い合うことができた。協議会の時間が足りないほどに多くの意見が出たが、効率的に意見集約も行った。また、授業参観をしたり、「教育課程」「学習指導要領」など、学校で使う用語について学ぶ機会をもったりしたことも熟議に生かされ、協議会発足1年目だった昨年度に比べると、活発に熟議を行うことができた。

しかし、本年度の運営方針に「コミュニティスクールを活用し、より一層地域に開かれた教育課程」があげられていたが、この点については議論が欠けた感がある。今後「地域に開かれた教育課程」について理解を深め、委員としてどのような助力ができるかも含め、一層充実した熟議をしていきたい。

### <評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

学習ボランティア、子供の居場所づくりなどの活動に対し、委員が学校支援コーディネーター、自治会、民生委員、保護者などそれぞれの立場から、支援につながる情報の提供や活動の提案があり、充実した熟議を行うことができた。評価項目に照らして考えても、概ね満足の結果を得られた。

しかし、出された意見が実際の活動につながっている部分はまだ多くはない。今後、学校や地域(自治会)との連携をさらに深め、熟議から行動、結果につなげていかなければならないと思う。その中で、協議会がどのような役割を担うべきなのかも考えていきたい。

なお、学校のことについては意見を述べるができるが、家庭のことについてはそれぞれの事情があるので難しい面がある。一般的な意見具申の中で協議会の役割を果たすことができればと思う。

### <評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

協議会としての情報発信は、もっぱら学校ホームページへの掲載、学校広報誌「コミスクだより」により行われた。それらに対する地域からの反応はなく、この方法による情報発信が「十分な情報発信」であるかは判断が付き難く、また「どのような効果があったのか」の判断も難しい。学校運営協議会はまだ2年目で、住民の認知度は高いと言い難く、「コミスクだより」の編集及び本制度の周知には、更なる努力・工夫が必要と感じる。学校、PTA、地域との連携を深めるためにも、今後、情報発信のあり方を協議会で議論したい。

### <評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

地域や各組織との連携を深めるためには、学校運営協議会の周知を図る必要がある。そのため、協議会の開催方法や情報発信の仕方を工夫する。

○委員の紹介の場の設定 ○教員全員参加の会の開催 ○たよりの発行回数の増加 等